

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271102073		
法人名	社会福祉法人 日浦会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム レーブそとめ式番館		
所在地	長崎市上黒崎町2199番地15		
自己評価作成日	平成30年12月20日	評価結果確定日	平成31年3月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然に囲まれた環境、そこで畑等を作り収穫、献立、おやつに取り入れています。協力医療機関の医師による月2回の往診があり、ご利用者の健康管理に努めています。献立は栄養士が作成しておりバランスのとれた食事が提供できます。行事は誕生会や節分、クリスマス会などを行っています。又、外出(花見・買物など)もご利用者の状況を見ながら全員参加でお弁当・おやつ等持参して行っています。毎月新聞やお知らせをお送りし、ご家族の方にも生活の様子をお伝えしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271102073-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271102073-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

理念に基づく運営の面において3点掲げることができる。1つ目は運営推進会議の参加者が多彩である。駐在所の方や他法人のグループホームの職員が参加している現況は、特徴の1つと言える。2つ目は運営に関する家族等の意見の反映のところで、家族との信頼関係を構築するため、毎月「ホームでのご様子」という紙面を作成して、入居者の近況を必ず送付している。更に1年に1回「ご家族ふれあいデイ」という企画を設けている。これは入居者やその家族、職員との交流を図る目的で、レクリエーションや食事会を行っている内容であるが、家族はかしまることなく自然と意見を表出する場の1つとなっている。3つ目は職員意見の反映のところで、職場が明るい点を掲げることができる。これはお互い信頼関係が構築されていて、意見を言いやすい関係にあるためで、離職者が少ないことも少なからず関係している。最後に日々の支援の中から、入居者と職員は食事を一緒に食べているが、世間話をしながらゆっくりと食事をしている風景は、家庭の延長のような温もりのある雰囲気を出していた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人で作られた運営理念を毎日の朝礼で唱和している。	法人の理念として1. 地域福祉に貢献 2. 常に御利用者の満足度の追求 3. 職員間の和をもって明るい職場づくりの3点を掲げて、更に事業所として「ご利用される皆様に笑顔で対応します」を部署方針として落とし込んでいる。この理念に基づくレーブそとめ式番館の事業計画に大目標・中目標・小目標を設定して、職員が実践しやすいようにわかりやすくまとめている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会で行われているミニ運動や学童との交流会など地域とのつながりが持てるように支援を行っている。	昨年は近隣の様々な団体との交流に加えて、外海ふるさと祭りという地域の行事に参加した。この時は入居者が作ったちぎり絵の作品を出展するという形であった。また法人として地域のサロン活動にも参画するようになり、地域の一員として活動の幅を少しずつ広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会の総会に参加したり市民大清掃に参加したりして地域の人々に理解してもらうように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、入居者の状況、ホームでの取り組みの報告を行い、助言、ご意見を頂きサービス向上につなげ実践している。	法人の特色の1つとして運営推進会議の参加メンバーが多岐に渡り、様々な意見が出て意義ある会議となっている。例えば駐在所からの参加がある時は、地域で発生している被害案件等を丁寧に解説してくれるとのことで、参加者にとって大変有意義な場となっている。また、近隣の他法人が運営するグループホームも参加しており、普段から顔の見える関係を構築できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のすこやか支援課・包括支援センターの方に運営推進会議に参加していただき現状を把握していただいている。(たよりなども配付している)。	主に運営推進会議の場において、行政職員と情報交換を行うことが多い。この場において式番館の活動報告を行うと同時に、相談する場として活用している。ここ最近では生活保護の受給の件について相談する機会があり、担当の福祉課へつなげることができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修に参加するなど「身体拘束をしない」ホームの方針はスタッフ一人ひとりに定着している。	法人全体としての取組みは身体拘束廃止委員会の設置で、毎月の主任会議の後に開催するようになっている。この場で身体拘束をしない、させない取組みの共有を図り、管理者は協議内容を式番館でのレーブ会議で特に気をつけること等を報告している。また2ヶ月に1回法人内で接遇会議が開催されており、言葉使いや関わり方等を振り返る機会を得ている。このように管理者が法人全体で取り組んでいることを、式番館の職員に落とし込んで、効率的に共有を図っている仕組みを確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修に参加するなど日々の業務に生かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要ときに支援できる体制をとれるよう学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の範囲で入居時にご家族様に説明を行い理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し苦情など受け付けている。要望は職員会議で検討し、運営に反映させている。	一番身近にできている取組みとして、6ヶ月に1回のケアプラン会議の場で、管理者、ケアマネージャー、入居者の担当職員、入居者、家族が参加して意見交換している。また毎月「ホームでのご様子」という近況報告を家族等に送付していて、定期的な状況報告をすることができている。このような取組みは家族にとっての課題提供の1つにもなるため、有益な取組みと言える。この他、1年に1回「ご家族ふれあいデー」という企画を用意している。入居者や家族等が約30名程参加する規模で、レクリエーション後に皆で食事をするような交流の機会がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のレーブ会議で職員の意見を聞き対応している、又本部で行われている主任会議に情報の報告を行っている。	上位者と職員との個別面談は特に行っていないが、今のところ業務中や月に1回のレーブ会議で意見を交わすことで、特に運営上の支障はないということであった。弐番館では意見を言いやすい雰囲気にあるということで、概ね1週間に1度副施設長が朝礼に訪問した際も、職員から副施設長に直接的に物品の購入等相談するとのことであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働けるよう職員一人ひとりに役わりを持って働いてもらっている又、楽しんで働ける職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修への参加で技術面や知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催の地域ネットワーク会議や他のグループホームの運営推進会議に参加し、他事業所と交流を持ち情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や要望など、1回だけではなかなか聞き出せないのので、生活の中で少しずつ出てくる言葉を受け止め、安心して頂くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、ホームとしてはどのような対応出来るか、事前に話し合いをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに出来ることは実行し、出来ないことも検討し対応できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の暮しの中で1人ひとりの出来ること(洗濯物たたみ、もやしの根切りなど)をお手伝いしてもらう事で関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での本人の様子を毎月「弐番館だより」や「ホームでの様子」にてお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に外出、外泊届けを出していただき、墓参りや一時帰宅ができるように努めている。また、老健の行事参加で馴染みの方との交流を支援している。	弐番館の特徴の1つとして、家族や友人、親戚等の面会が多いとのことであった。このことは人的な関わりが保たれている1つの証でもある。また、同一敷地内にある介護施設で開催されている、習字や絵手紙教室に入居者の一部が参加されている。昨年からは始まった取組みで、入居者がお知合いの方と会えたり、長年行っていた趣味活動や興味のある教室に参加できる点も、関係継続支援の一環として評価できる点である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間のソファで一緒にテレビを見たり会話が出来るようにしている。また、食卓の席にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じ、相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の一人ひとりの思いや、希望、意向などを日々の生活の中で聞きだし、把握に努めている	日々の支援の中で入居者との会話の時間を多くつくるよう努めており、特に夜勤者が夕食後から就寝までの1～1時間半の間に入居者と時間をとって話をしている。現在、意向を把握することが困難な入居者については、2～3年前に本人から聞いていた話を中心にして意向の把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族よりこれまでの生活歴などを聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の出来ることは何かをご家族様とも相談し、その有する力を把握する。また、日々の生活の中で出来る事・出来ない事の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議ではご本人、家族、職員が話し合い、その人らしく暮らし続けるための計画を作成している。	介護計画の見直しは基本的に6カ月に1回と介護度が変更したときに行っており、担当職員によるモニタリングは3カ月に1回実施している。ケアプラン会議には必ず担当職員、ケアマネ、入居者、家族が参加している。会議を家族とのコミュニケーションの貴重な機会と捉えており、入居者の現状について家族に直接説明したうえで家族の意向を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の暮らしぶりを日常生活記録や特記事項に記入し職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人やご家族のその時々状況などに応じて、いろいろなサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市の職員、警察、自治会長、家族代表などに参加して頂いており周辺情報や支援に対する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、本人・家族が希望の医療機関へ受診している。協力医以外は基本的には家族同行の受診となっているが不可能な時には職員が代行している	月に2回、協力医が往診に来ており、診察や病院受診の指示、半年に1度の血液検査、常用薬の処方をしている。常備薬については前日までに病院に薬の在庫や服薬状況などをFAXで連絡し、事前に情報共有している。協力医以外の受診は家族の同行が基本だが、職員代行の場合は受診前に家族に状況説明して許可をとり、受診後に結果を報告して家族への情報共有を欠かさず行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを協力医療機関に伝えて相談している、又月2回の医師の往診時にそれまでの様子、状態など詳しく報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取りはしない方針で重度化した時や急変時は、医療機関へ移って頂く事や対応について入居時に説明している	看取りをしない方針について重要事項説明書に記載し、入居時に家族に説明している。夜間の急変時の対応は日浦病院の緊急外来と連携しており、夜勤者の連絡で近くに住んでいる職員が駆けつけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない ケース別の勉強会・定期的に行ない実践力を身につけたいと思ってる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p> <p>また、火災等を未然に防ぐための対策をしている</p>	<p>マニュアルを作成し、火災については毎月訓練を実施している。また沓番館との合同訓練を実施している。地震や水害などの災害では孤立した場合を想定し食糧を3日分の備蓄を行っている。また、年1回の避難訓練も行っている。</p>	<p>火災の避難訓練は消防署立ち合いのもと沓番館と合同で行う総合避難訓練と、夜間想定避難訓練を1回ずつ年間計2回行っている。自然災害の避難訓練は地盤くずれを想定して入居者を実際に避難させるなど沓番館の立地条件を考慮した訓練内容となっている。備蓄は食糧12人分を3日間分とヘッドライト、ランタン、電池を保管し災害時に備えている。</p>	<p>地域の消防団に声掛けをして見回りの依頼をしているが消防団の活動自体が活発ではないことと、山の上にあるという立地条件から周辺住民との連携が難しい状況である。また、水の備蓄について現在、地下水の汲み上げのみで、停電の際の水の確保が課題である。今後は運営推進会議に参加している他事業所との連携や周辺住民との連絡網作成など情報共有体制の見直し、停電時に備えた水の備蓄の検討を期待する。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修へ参加をして言葉かけには注意し声かけしている。	職員ごとの研修出席簿を作成して出席状況を把握し、なるべく多くの職員に研修を受けるように促している。毎年4月に行っている接遇研修は新人が受けられるようにシフトを配慮している。入居者の対応はできるだけすぐに対応し、入居者を不必要に待たせないように心がけて支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やお手伝いなど、声かけで本人が決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、食事の時間など、本人の体調や希望でずらしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容にてカットをしていただいている また、行事等には服装選びやお化粧を手伝うなどで支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根きり、おしぼり作りなど手伝っていただいている、茶わん、箸、湯飲みは使い慣れた物を持ってきていただくなどしている、職員も同じテーブルで一緒に会話をしながら食べている。	法人の管理栄養士が作成したメニューをもとに毎日材料が届けられ、職員が弐番館の台所で調理をしている。軟パン、きざみ、とろみ、量の増減、嗜好への対応をできる限り行っている。また、入居者はもやしの根切り、おしぼり作り、下膳、食器洗いをして食事の準備と後片付けに参加している。職員と入居者が同じ食卓を囲み会話をしながら食事をしていて、食事を楽しめる温かい雰囲気となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立に沿って調理している、好き嫌いのある方にも食材を変更するなど、できるだけ対応している、朝夕に居室にお茶を置き水分補給できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声かけして歯磨きをしていただいている できない方は毎食後口腔ケアを行っている。月2回の歯科医師による口腔衛生ケアが行なわれている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はなるべくトイレで排泄できるよう支援している。夜間も声かけしトイレで排泄できるようにしている。	入居者ごとの日誌に一週間分の日勤、夜勤の記録と食事、排泄を記録して入居者の排泄パターンを含む生活状況を把握している。日中は毎食前とおやつの前、夜間は2～3回声掛けを行い、入居者の排泄を定期的に促している。老健から移動してきた入居者が、オムツからパッドへ徐々に排泄の自立ができた事例もあり、日々の支援の中で自立を目指す姿勢が窺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を行い便秘対策をしている、又散歩やリハビリを促し、少しでも運動ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は1日おきにしているが、汚染(失禁など)、したり、希望がある場合は入浴できるよう支援している、又入浴の順番にも気を使っている。	一日おきに入浴日としているが、入浴しない日は必ず清拭を行い清潔に保っている。入浴した日を1カ月分記録する入浴チェック表で入居者ごとの入浴状況を把握している。入浴を断られたときは清拭に変更して翌日に入浴したり時間をおいて声掛けをして対応している。一番風呂が好きな人を最初にしたり浴槽に入ると失禁しやすい人を後半にしたり順番の工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今まで使っていた寝具を持ち込んでいただくなどしている、寝たい時間に寝れるよう声かけも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている 自分で出来ない人には投与している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりお願いできそうなお手伝いを頼んだりレクリエーションでゲームや手作業など楽しめるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩を声かけしている。また、弁当を持って外出(ドライブ)や買い物も実施している。	京泊のドラッグストアやスーパーへ入居者2～3名ずつ外出し、買物支援をしている。春と秋の気候が穏やかな季節は、周辺を散歩する日を設けたり、その他にも春に法人所有のグラウンドにある桜で花見をしている。年に1度のドライブでは大瀬戸やあぐりの丘に行き、歩行の困難な方も車いすごと乗れる車を使用しポータブルトイレを持っていくなど外出できるように支援している。日常的にも入居者の希望で式番館の周りで外気浴をしたり、外でシートを広げておやつを食べるなど外に出る機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方はご家族の了解をもらい、個々の能力に応じて管理し要望があればいつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという要望には出来るだけ応えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下は季節によって飾りつけを変え、廊下には外出時の集合写真などを飾っている。	玄関の花瓶には季節の花を差し、居間には入居者が季節ごとに共同制作しているちぎり絵を貼っている。また、廊下には学童の子供たちから贈られた折り紙の飾りや、行事の集合写真が飾っており、季節感のある家庭的な雰囲気である。掃除は日勤の職員が担当しており、清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーではテレビを見たり、気の合った人同士おしゃべりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家電や使いやすい家具など持ち込まれている。	居室内で備え付けのものはタンスとベッドのみで、入居者ごとに馴染みの家具やテレビなどを持ち込んだり、家族の写真や趣味の相撲のポスターなどを飾っており、生活感のある居心地のよい雰囲気となっている。居室内はバリアフリーでトイレとの仕切りはカーテンとなっているが、においが無く清潔に保たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで移動が安易なように工夫しているが転倒などの恐れがある方を見守りを徹底している。		